一般演題口演2

O-08　内因性テストステロン産生促進塗布剤（ENDO-TEST）の使用経験

北村　浩[1)]、大内 和幸[2)]、アルカターニ アーメッド[3)]
[1)] 医療法人思惟木会石神井公園駅前えんじゅ内科クリニック、[2)] AQスキンソリューションズジャパン株式会社、
[3)] AQセラピューティクス株式会社

【目的】内因性テストステロン産生を促す塗布剤（AQ ENDO-TEST, 以下, ET）は、黄体形成ホルモン（LH）に類似した、精腺を刺激するペプチドの組み合わせからなる塗布剤であり、欧米では既にテストステロンを増加させる「塗るサプリメント」として認可されている。我々は日本人におけるＥＴ使用前後の各種ホルモン値の推移を調べるため、少人数でのパイロットスタディを行った。
【方法】Healthy volunteerの男性5名を募り、一般的血液生化学的検査およびFSH, LH, プロラクチン, 総テストステロン、遊離テストステロン（Free Testosterone, 以下FT）、PSAを塗布開始前と塗布中1ヶ月毎に合計3ヶ月測定した。また同時にAging Male Symptom（AMS）scaleを併せて実施した。ETは毎朝両前腕内側に3～4プッシュずつ、合計6～8プッシュ（4プッシュで1mL相当）擦り合わせて塗り伸ばすと容易に乾くようになっている。
【結果】47歳1名、50歳代（52歳、56歳）2名、60歳1名、78歳1名の合計5名がエントリーした。合併症は77歳男性のみ高血圧症にて降圧剤を内服しており、血圧は安定していた。開始前にLOH症候群の診断基準とされるFT＜11.8pg/mLを下回っていたのは、56歳（FT9.9pg/mL）, 78歳（7.0pg/mL）の2名であり、それ以外は基準値以上であった。2名のAMSスコアはそれぞれ37点（中等度）、52点（重度）であった。開始3ヶ月後のFT値はそれぞれ9.9pg/mL（AMS; 26点）, 9.5pg/mL（AMS; 23点）。さらに56歳のみ塗布を継続し、6ヶ月後、9ヶ月後のFT値は11.6pg/mL（AMS; 26点）、11.4pg/mL（AMS; 32点）と上昇傾向を認めた。FSH、LHは3ヶ月後、6ヶ月後に軽度上昇したが、9ヶ月後には基準値範囲内に戻っていた。特記すべき血液・非血液性双方とも有害事象をみとめなかった。また経過中、総テストステロン値は殆ど変動しなかった。
【結語】欧米では他のホルモンに影響や副作用の報告がなく、一般的に用いられている。日本人においても長期間使用経過中、多血症や脱毛といった副作用も起こらず、LOH症候群の基準をみたす2名のFTは双方ともに上昇していた。本検討はパイロット的に行われた少数の結果であるが、定期的な筋注が困難な場合、副作用が懸念される場合の治療オプションとなり得る可能性があると考えられた。